



2020年11月4日

各 位

会社名 ヤマシンフィルタ株式会社
 代表者名 代表取締役社長執行役員 山崎 敦彦
 (コード番号：6240 東証第一部)
 問合せ先 取締役専務執行役員管理本部長 井岡 周久
 (TEL. 045-680-1671)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2020年11月4日開催の取締役会において、2020年8月4日に開示した2021年3月期通期（2020年4月1日～2021年3月31日）の業績予想の修正を行うことを決議いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

1. 2021年3月期 通期連結業績予想数値の修正

(2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	15,000	1,230	1,200	790	11.42円
今回修正予想 (B)	16,000	1,300	1,280	1,350	17.15円
増減額 (B-A)	1,000	70	80	560	—
増減率 (%)	6.6%	5.6%	6.6%	70.8%	—
(参考) 前期実績 (2020年3月期)	12,674	777	603	608	8.79円

(注) 前提為替レート 米ドル 108円 (前回見通し公表時 108円)

ユーロ 121円 (前回見通し公表時 121円)

2. 業績予想の修正理由

1. ヘルスケア事業

ヘルスケア事業においては、新型コロナウイルス感染者数の継続的な増加に伴う恒常的なマスク需要増大を背景として国内マスクの市場規模は大幅に拡大しており、外国製マスクと比較して性能面や安全性・品質で勝る国産マスクの需要は引き続き増加が見込まれます。このような市場環境の中、当社グループは、当社独自技術である合成高分子系ナノファイバーを活用したマスク並びに取替用インナーシートを製品化し、2020年5月から当社のECサイトにおいて販売開始し、同年9月からは主要ドラッグストア等を通じ販売を暫時開始しました。

また、70年に及ぶフィルタの専門メーカーとして培ってきた技術を活かし、新たにNIOSH(米国労働安全衛生研究所)の規格の一つであるN95マスク(注1)の性能基準である、①フィルタ性能—捕集効率95%以上(注2)、②密閉性—装着中の顔とマスクの密着率90%以上(注2)、③通気性—長時間装着での呼吸の

し易さ、というマスクに必要な3大性能を実現した医療用レベルの性能を実現した一般消費者向けマスク「Zexeed」を開発し、当社のフラッグシップモデルとして2020年10月より先行発売を開始し、11月より全国販売してまいります。

今後、当社グループは医療現場等で必要とされる更なる高機能マスクの認証取得（日米欧の各規格（注3））に向けた取り組みを加速させるとともに、他のマスクメーカーとは異なる高機能なマスク開発に邁進し、医療用の防塵マスク含めた製品ラインナップの拡大やコンビニエンスストアチェーン、大手通販等への販路の拡大を図ってまいります。

（注1） N95マスク（Particulate Respirator Type N95）とは、アメリカ合衆国労働安全衛生研究所（NIOSH）のN95規格をクリアし、認可された微粒子用マスクのこと

（注2） 当社調べ

（注3） 日本における国家検定規格（DS）、米国におけるNIOSH規格（N95）及び欧州におけるEN規格（FFP）

以上の取り組みにより、大手コンビニエンスストアチェーン等への供給が2020年11月から本格化する見通しであることから業績予想の修正を行います。

2. 建機用フィルタ事業

前回通期の業績見通しを公表した2020年8月4日時点と比較し、新型コロナウイルスの感染拡大第2波、第3波の影響などを踏まえ、世界経済全体や為替動向には依然として先行き不透明さが残る中、停滞していた主要得意先各社の生産活動は回復傾向にあります。とりわけ世界の油圧ショベルの販売の6割以上を占める中国市場においては、日系メーカーを中心とした当社の主要得意先各社の市場占有率が大幅に縮小し、中国系建機メーカーの市場占有率拡大が継続する中、主力のリターンフィルタを中心とした当社製品の中国系建機メーカーへの標準品採用が着実に進捗している結果を踏まえ、当社の建機用フィルタ事業における業績は回復が見込まれます。しかしながら、第1四半期に発生したコロナ禍における得意先への納期対応に係る航空運賃や、2019年8月に子会社化したアクシー社の新社屋への移転費用等が一時的に発生したこと、また、同社が保有する工場の建物に関して、一部法令に適合していない点につき、主たる売主に対して当該株式取得に係る株式譲渡契約の表明補償契約違反を理由に一定の補償を請求し、2020年11月4日に、当社と主たる売主との間で和解契約書を締結したことにより、当第3四半期に特別利益の計上が見込まれることから、通業績予想の修正を行います。

3. エアフィルタ事業

エアフィルタ事業の業績見通しについては、株式会社アクシーの第3四半期以降の受注動向を踏まえ、業績予想を据え置きます。

4. 結論

以上により2020年8月4日に公表しました通期連結業績の修正を行います。

2021年3月期の想定為替レートにつきましては、同日の公表値である米ドル108円、ユーロ121円を据え置きます。

今後、市場環境の変化が業績等に影響を与える場合には速やかに開示いたします。

(ご参考)

1. 連結業績予想値の修正概要

- a. 売上高については、建機用フィルタ事業及びエアフィルタ事業に関しては、通期の業績予想を据え置きます。一方で、新規ヘルスケア事業については、2020年5月より開始したマスク並びに取替用インナーシートの販売が2020年11月以降ドラッグストアチェーンに対して本格的な量産供給が開始されることに加え、大手コンビニエンスストアチェーン各社にも、11月以降暫時販路が拡大する見通しとなったことから、全体で6.6%の増収となる見込みです。
- b. 営業利益については、新規ヘルスケア事業の立ち上げに伴う増収効果が、一時的に発生した航空運賃等の費用や事業再編に要したデューデリジェンス費用並びに新規マスク事業に伴うPR費用等の発生による減収を上回ったことから、前回開示した業績予想に比べ5.6%の増益となる見込みです。
- c. 経常利益については、前回開示した業績予想に比べ6.6%の増益となる見込みです。
- d. 親会社株主に帰属する当期純利益については、2019年8月に子会社化したアクシー社の主たる売主に対して一定の補償を請求し、当社と主たる売主との間で和解契約書を締結したことにより、当第3四半期に特別利益の計上する見通しとなったことから、前回開示した業績予想に比べ70.8%の増益となる見込みです。

2. 事業セグメント別の見通し

(建機用フィルタ事業)

(2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属する 当期純利益
前回発表予想(A)	10,000	300	290	200
今回修正予想(B)	10,000	100	100	570
増減額(B-A)	—	△200	△190	370
増減率(%)	—	△66.6%	△65.5%	185%
前期通期実績 (2020年3月期)	11,296	654	468	306

※各セグメントに帰属しない全社共通経費につきましては、建機用フィルタ事業セグメントに配賦しております。

(エアフィルタ事業)

(2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属する 当期純利益
前回発表予想(A)	3,000	290	270	140
今回修正予想(B)	3,000	290	270	140
増減額(B-A)	—	—	—	—
増減率(%)	—	—	—	—
前期通期実績 (2020年3月期)	1,377	122	134	323

(ヘルスケア事業)

(2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属する 当期純利益
前回発表予想(A)	2,000	640	640	450
今回修正予想(B)	3,000	910	910	640
増減額(B-A)	1,000	270	270	190
増減率(%)	50%	42.1%	42.1%	42.2%
前期通期実績 (2020年3月期)	—	—	—	—

以 上